

トヨタ 来月4割減産

コロナで部品供給不足

トヨタ自動車は十九日、東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、部品が供給不足に陥ったとして、九月の世界生産で三十六万台の減産に踏み切ると発表した。当初計画の約九十万台と比べると、四割の大規模な減産となる。＝関連③面

一万台となる。八月下旬にも国内で二万台を減産する。

ただコロナ影響による減産リスクはすでに織り込み済みとして、二〇二二年度の世界生産台数は当初計画

の九百三十万台のまま据え置いた。世界的な半導体不足も解消されておらず、先行きは見通しづらいが、トヨタは「代替生産や代替品の活用で、早期の生産再開に仕入れ先と一体となって

取り組みたい」としている。

国内では、高岡工場(愛知県豊田市)など十四工場の計二十七ラインに影響が出る。期間は八月二十四日から九月末までで、最大で二十八日間稼働を停止する。九月の減産規模を地域別に見ると、日本が十四万台、北米が八万台、中国が八万台、欧州が四万台、アジアが八万台、その他が

ダイハツも

4万台減産

東南アジアの部品遅れ

ダイハツ工業は二十日、今月下旬から九月下旬にかけて国内四工場の操業を断続的に停止すると発表した。東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大によ

り、現地からの部品調達が遅滞しているため。減産規模は約四万台で、昨年の同時期と比べて約二割減る見通し。

小型スポーツタイプ多目的車(SUV)「ロッキー」や軽自動車「タント」を生産する滋賀第二工場(滋賀県竜王町)は計十七日間停止する。「ミラ イース」の

大分第二工場(大分県中津市)も八日間止める。本社工場(大阪府池田市)は十日間、京都工場(京都府大山崎町)は三日間それぞれ停止する。

東南アジアのサプライチェーン(供給網)混乱の影響を受け、親会社のトヨタ自動車も十九日、九月の世界生産台数が計画比で三

十六万台減る見通しを明らかにした。ダイハツの減産台数は、一部を除いてトヨタの数字には含まれない。

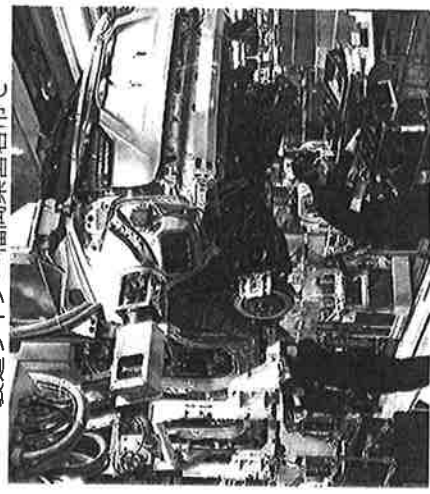
中日 2021/8/21 9

稼働停止するトヨタの工場

工場	所在地	停止日数	主な生産車種
元町工場	愛知県豊田市	3~28	クラウン、ミライ、センチュリー
高岡工場	同市	13	カローラ、ハリアー
東工	同市	10~14	プリウス、カムリ
田原工場	同県田原市	2~5	レクサスLS、ブラッド
長草工場	同県大府市	5	RAV4
トヨタ車体 富士松工場	同県刈谷市	1~9	ノア、ヴォクシー
トヨタ車体 吉原工場	同県豊田市	1~20	ランドクルーザー
トヨタ車体 いなべ工場	三重県いなべ市	3	ハイエース、アルファード
岐阜車体工業	岐阜県各務原市	1~3	コースター、救急車
トヨタ東日本 岩手工場	岩手県金ケ崎町	6~10	ヤリス、アクア
トヨタ東日本 宮城大衡工場	宮城県大衡村	5	ヤリスクロス、シエンタ
トヨタ九州宮田工場	福岡県宮若市	6~9	レクサスNX、レクサスUX
タイハツ 京都工場	京都府大山崎町	3	プロボックス
日野自動車 羽村工場	東京都羽村市	2	高機能車 (自衛隊車両)

※国内14工場の計27生産ラインで停止。日数は車種によって異なる

トヨタ自動車九州宮田工場の製造ライン＝福岡県宮若市で



トヨタ 供給網リスク鮮明

トヨタ自動車の世界生産が九月に当初計画比で四割の減産となれば、新型コロナウイルスの第一波に見舞われた昨年六月の44%以来の大規模な減産幅となる。半導体不足に加え、デルタ株が世界的に猛威を振るう中、サプライチェーン（供給網）のリスクがあらためて浮き彫りとなった。

(自石直)

大幅減産 昨年6月以来規模

「東南アジアでのロックダウン（都市封鎖）が大きく影響し、複数の現地の仕入れ先の稼働に大きな影響があった。複数の部品で必要数の供給が難しくなり、急激かつ規模の大きい減産に至った」。トヨタの熊倉和生調達本部長は十九日、オンラインで記者団にこう説明した。

トヨタは六月以降、半導体やコロナによる減産を数千一万台に抑え込んできた。今回減産の規模が一気に跳ね上がるのは、多くの車種に使われる部品が、ベトナムとマレーシアで政府から工場の稼働停止を命じられるなどして、生産が急速に滞った影響が大きい。

トヨタは原因となった部品を明らかにしていないが、複数のサプライヤー（部品の供給業者）によると、電気信号などを伝える配線部

品のワイヤハーネスに影響したという。

トヨタは東日本大震災以降、部品供給リスクを分散するため、サプライヤーと一体となって対策に力を入れてきたが、コロナの感染拡大のスピードは想定を超えており、熊倉本部長は「コロナはどこでどこに広がって、収束していくか、なかなか読みにくい」と話す。

マツダ海外2工場 9、10日間停止へ 月内、半導体不足で

マツダは十九日、世界的な半導体不足の影響で、八月にタイ工場を計十日間、メキシコ工場を計九日間をそれぞれ稼働を停止すると明らかにした。西工場とも既に数日間止めている。減産台数の規模は公表していない。

西工場では小型スポーツタイプ多目的車（SUV）「CX-30」や主力車「マツダ3」などを手掛けている。九月以降の生産は「今後の状況をみながら決める」としている。

マツダは半導体不足で、七月に防府第二工場（山口県防府市）の稼働を止めている。

トヨタ、来月4割減産

東南ア感染拡大 通期台数3%下げ

トヨタ自動車は10日、9～10月の世界生産台数を従来計画から約40万台減らすと発表した。10月の減産規模は33万台で、月ベースで4割の減少となる。2022年3月期通期の生産も900万台と3%(30万台)下方修正した。東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大や半導体不足で部品

の調達難が続く。固定費の削減などを想定し今期の連結業績見通しは据え置いた。

(関連記事7面に)

トヨタは8月中旬に9月の生産計画を36万台減産すると発表していた。今回は追加で9月に7万台、10月に33万台を減産する。10月は全世界で約88万台を生産する計画だ

9月中旬以降、主力拠点の高岡工場(愛知県豊田市)や堤工場(同)など国内全14工場のうち9工場の生産ラインを追加で一部停止する。

10日のオンライン説明会で、トヨタの熊倉和生

調達本部長は「東南アジアのコロナが収まらな

い。部品の代替調達を進めているが、全量確保ができない」と話した。11月以降の生産については「早期復旧や代替生産な

どの対策を進めていく」と述べた。

近健太取締役は「固定費の抑制や為替相場の円安傾向から、連結業績予想の営業利益や純利益は「変更しない」と話した。

トヨタ、取引先支援も

減産継続 部品・素材各社が警戒

トヨタ自動車が減産の継続を余儀なくされた。約4万社ともされる取引先への影響は必至で、減産が長期化するほど幅広い部品や素材メーカーなどへの打撃は広がる。トヨタは影響を抑えるために取引先の資金面での支援も検討する。(1面参照)

トヨタの生産計画の引き下げは9月の追加で海外4万台、国内3万台。10月は海外18万台、国内15万台となる。10日のオンライン説明会でトヨタの熊倉和生調達本部長は新型コロナウイルスによる部品や人の流れの停

滞、半導体不足により「稼働の維持が非常に難しい」と述べた。

「東南アジアでは突然ロックダウンになり、物流が断ち切られる不透明感がある」(デンソーの松井靖取締役)。トヨタグループでは今夏以降に感染拡大への警戒が広がっていた。その懸念が現実となり、部品会社は対応に迫られる。

ある部品メーカーの幹部は「稼働日程を再考する必要がある」と打ち明ける。当面は在庫を増やしつつ稼働を続ける方針だが、確保する倉庫の空間にも限りがあるとい

う。別のサプライヤー幹部も会社予想の通期業績について「これまでは上振れペースだったが、今後は急減速するだろう」と述べた。

帝国データバンクによると、トヨタ本体を含むグループ15社の2次取引先までの企業は全国で約4万1000社に及ぶ。

トヨタも今後の生産挽回に備え、部品会社への影響は抑えたい考え。熊倉本部長は10日の説明会で「資金繰りを中心にサポートしつつ、対策も含めコミュニケーションしたい」と述べ、取引先の支援に乗り出す意向を示

した。

新型コロナウイルスによりトヨタ以外の日系自動車メーカーも減産の乗り出しているだけに、関連産業への影響は広がりそうだ。

使う部品の調達が難しくなった。スズキも9月にタイ工場を稼働停止する期間をもつける。日産自

動車では米南部テネシー州の完成車工場の生産が8月に2週間休止するなどの支障が生じている。

トヨタ幹部からは「期末にかけて減産分を挽回したい」との声もあがる。素材メーカー幹部は「急に生産を回復させるのは難しいだろう」との認識を示す。

いま感染拡大を抑えられ

7 総合5 12版

【第三種郵便物認可】